

## カマ第一堰改修事業、間もなく完工山田堰モデルの完成形実現へ

冬のクナール河は清流です。14,000 平方メートルの石張りの板をすすぐように、透明な青い水が堰の表面を注いでいきます。そうそうと流れる堰の光景が目に入る度に、みな沈黙して立ち止まります。言葉で語られぬ、不思議な世界に引き込まれるのです。殊に汗を流し、寒風の中を冷たい水に足を浸しながら工事を見守ってきた者たちは殆ど喋りません。ただ流れに見入ってしまいます。働く者には苦労が報われる瞬間であり、信仰深い者には神の啓示だからです。

カマ第一堰の改修工事を以て、当面の技術的完成はできたとして、おそらく構わないかと思います。ここに至るまでの 16 年間の辛苦が、この堰の完成に込められています。堰の流れそのものが、理屈を超える何かを、直接人の心に伝えるのです。

「緑の大地計画」実施から 16 年の間に、世界はめまぐるしく変わりました。小生も川と共に歳を取り、これを以て役割も大きく変わります。後に続く人々の育成が大きな課題になります。今後は現地 PMS 継続のため、日本と現地のつなぎ役として、本格的に動きたいと考えております。

自然相手の仕事は一筋縄でいかず、時間もかかります。また、一世代で終わるものでもないことを身に染みて実感しております。この事情は実は日本も同じで、 気候変化に伴う河川の問題、水と農業の行方は大きな課題です。

大旱魃の発生から 19 年、取水堰を最大のテーマとしてから 10 年、一つの節目に来たと感じております。折よく昨年からミラーン訓練所でアフガン全土の技官たちの研修が始まり、既に 200 名以上が受講しています。アフガン政府が本方式を標準の一つに加えることを決定し、日本土木学会からは破格の技術賞が贈られるなど、事態は明るい方向に進んでいるように思えます。2月 10日からガンベリ・シギ排水路の工事が始まり、同時進行で PMS 農場のフェンスが設置され、農業に力が入ります。更に 15年を経たマルワリード用水路の改修も開始されています。

今年になって、かなりの降雨があり、旱魃は下火になりつつあります。しかし、動揺しながら悪化してきたのが現状です。昨年は大旱魃の再来を思わせる動きもあり、油断ができませんが、もうひとふんばりで本方式が定着する見通しがあります。これまでの温かい関心とご協力に改めて感謝いたします。

2019年2月17日 記

生憎の雨天続きで写真日和に出会わなかったが、作業は終了、後片づけに入っている。土砂吐はかなり激しい流れで、流速は毎秒4mに迫る。2019年2月17日



砂州側から堰体を見る。2019年2月14日



堰表面の水深は冬期で0-20 cmを予測、流速は毎秒1m程度で、クナール河としては優しい流れになっている。何よりも現場監督の平面測量の腕が上がり、図面通りの傾斜が作られたことが成果だ。近くから見る堰の水は透明で水色。2019 年2 月14 日

